



探究学習のヒント

常識に挑戦する あえて異なる思考をする 今までの考え方にとらわれない

おカネの正体は？

城西大学経営学部 特任教授
粕谷 和生



登場人物



1. おカネとは



：世界で一番のお金持ちは誰なんだろう？



：アメリカの経済誌『フォーブス』が発表した「世界長者番付 2022」によれば、テスラのイーロン・マスク CEO が、今年の世界一位らしいよ。



：どのくらいのお金を持っているの？



：保有資産は 2,190 億ドルで日本円に換算すると 28 兆円くらいかな。



：すごい！それだけの大金を保管するのは大変だよな。



：保管なんてしていないと思うけど。まさか、君はドル紙幣などで保管していると思っているの？



：えッ、違うの？

2. 伝統的な貨幣観（おカネの見方）



：高校一年生の時だったと思うけど、たしかこんなふうに習った。「原始社会の人々は自給自足の生活をしてたけど、やがて余った生産物をお互いに交換する物々交換を行うようになった。だけど物々交換では、自分が欲しいモノやその量などが、交換相手と合わないことが多くて、なかなか交換が成立しなかった。そこで交換用の道具として貨幣が用いら

れるようになった。初めは米や布、毛皮などそれ自体に価値がある物品貨幣が用いられ、やがて保存や持ち運びに便利な金、銀、銅などの金属貨幣が用いられるようになった。」



：素晴らしい！今、君が説明してくれたのがおカネに対する伝統的な見方だね。短くまとめると「おカネとは、物々交換の不便さを解消するために用いられるもの。」ということになるね。



：ボクがこんなにしっかり覚えていたのは、このおカネの見方はとても分かり易くて、説得力を感じたからだと思う。



：そうなんだ。この伝統的なおカネの見方は、経済学の父といわれるアダム・スミスも『国富論』のなかで述べているよ。そこでは、分業したパン屋、肉屋、酒屋を登場させ、物々交換が発展し、交換に便利な商業用具としておカネが誕生したと説明している。ただし、ここでいう分業は一つの仕事（生産）を分担して行うという意味ではなく、パン屋はパンの生産に特化し、肉屋は肉の生産に特化するという意味の分業なんだ。



：アダム・スミスによる説明だから今日の常識になったんだね。ちょっと待って。アダム・スミスは「おカネを商業用具」といったのでしょ。用具というからには形のあるモノだから、それを保管するに

は物理的なスペースが必要じゃない。
イーロン・マスクさんがおカネを保管し
ているスペースはとても大きいと思うよ。

3. 銀行預金はモノ？

：それなら聞くけど、小切手や約束手形は
どう？ 1万円札で支払う代わりに小切
手1万円を振り出して支払うこともでき
るよね。小切手や約束手形もおカネじゃ
ない？

：そうだね。小切手や約束手形もおカネと
同じように使える。

：小切手や約束手形は、振出人の当座預金
口座から支払われるから、当座預金もお
カネじゃない？

：当座預金もおカネというのは無理がある
よ。

：当座振込という決済方法があるだろ。自
分の当座預金口座から直接、相手の当座
預金口座に送金する方法なんだ。預金口
座間の振り替えなので小切手や約束手形
と仕組みは同じ。

：なるほど。当座預金もおカネの一種だ。
そうなると普通預金などその他の銀行預
金もすべておカネということになる。で
も、ボクは自分の普通預金を見たことな
いよ。見たことがあるのは通帳だけ。

：普通預金を見た人は誰もいない。なぜな
ら、普通預金はデジタルデータだからね。

：普通預金はデジタルデータ？

：XさんからYさんに普通預金というお
カネで1万円支払うとき、デジタルデー
タとして存在するXさんの普通預金口
座から1万円分のデータを減らし、同じ
くデジタルデータとして存在するYさ
んの普通預金口座の金額を1万円増やす
だけだからね。

：普通預金はモノではなくデジタルデータ
なのか。

：現代のようにICT技術が発達してい
ない時代でも、銀行預金は帳簿に記入さ
れた金額データだからモノではないこと
は確かだね。

：銀行預金はモノではないとしたら、アダ
ム・スミスがいう商業用具には当たらない
ことになる。

4. 物々交換は歴史上存在しなかった？

：伝統的なおカネの見方は、物々交換が前
提となっているよね。近年、その物々交
換が一つの共同体内で行われた証拠はな
いという研究がいくつも発表されている
んだ。

：物々交換の証拠はあるよ。ボクは兄弟や
友人などとやったことがある。

：そりゃボクだってあるさ。私的に個々で
行われる物々交換は誰でも経験したこと
はある。しかし、古代文明遺跡の発掘調
査や原始社会についての研究の結果、一
つの共同体のなかで物々交換が行われた
という証拠は発見できず、物々交換が主
流の経済社会は歴史上存在しなかったと
いうのが、今日の常識になりつつある。

：だって、物々交換はアダム・スミスが
いったのでしょ？経済学の父だよ、ス
ミスは！

：物々交換経済がなかったとする研究は、
文化人類学者など経済学以外の研究者か
ら主張されているんだ。その代表である
アメリカの人類学者デビッド・グレー
バーは「物々交換経済が起きたという証
拠は一つもなく、物々交換経済が起きな
かったことを示す証拠は山ほどある」と
語っているくらいだ。

：物々交換経済が歴史上、存在しなかった
としたら、経済学の常識がひっくり返る
ことになる。

5. メソポタミアの粘土板

 : 物々交換経済が歴史上なかったとしたら、おカネはいったいどこから来たのだろう？

 : 古代メソポタミアの粘土板がおカネと同じように使われていたということを知って読んでみたことがある。

 : メソポタミアの粘土板といえば、楔形文字だね。世界史でやった。

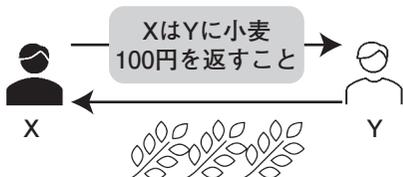
 : その楔形文字で粘土板には「〇〇は小麦を借りた。借りた量と同じ量の小麦を返す。」と書かれていたんだって。

 : それなら粘土板は借用証書だね。

 : 借用証書がなぜおカネになるのか、簿記でやっているように取引例で考えてみよう。メソポタミアに円なんて単位はないけど気にしないで取引例を作るよ。

【例1】 XはYから小麦100円を借りた。

そうすると粘土板には、「XはYに小麦100円を返すこと」と書かれる。



 : 債権者はYで債務者はXだね。

 : 【例2】 YはZから小麦100円を借りた。

ここで新たに粘土板を用意するのは面倒だから、Yは【例1】の粘土板をZに渡す。このとき、Zは粘土板を受け取る。なぜなら、ZはYから小麦100円を直接返してもらって代わりにXから小麦100円をもらっても同じだし、それにXにとってもYに返す代わりにZに小麦100円を渡しても負担は同じ。



 : でも、粘土板には「Yに返すこと」と書いてあるから、Zは粘土板を受け取らないんじゃない？

 : それなら、初めから粘土板にYの名前を書かなければいい。粘土板に書くのは債務者の名前と債務の金額だけにしておく。

 : でもZは債権者だから自分の名前が粘土板に書かれていないと不安にならない？

 : 粘土板を持っているのはZだから大丈夫。債権者は粘土板を持っている人と考える。小切手には振出人の名前は書いてあるけど、受取人の名前は書いてない。小切手を持ってきた「持参人」に支払うとなっているから、それと同じだよ。

 : なるほどね。YはZに対しておカネとして粘土板を渡すんだ。

 : 粘土板を受け取ったZも、また別の人に対して粘土板をおカネとして渡せる。

 : 粘土板がおカネとして流通するわけだ。

 : こういう例はほかにもあるよ。17世紀のイギリスでは、大金持ちの商人から金銀を預かったゴールド・スミスと呼ばれる金細工商人が発行した預かり証（金匠手形）が紙幣として流通したんだって。

 : 預かり証には、「この証書と引き換えに預かっている金銀100万円を返します」などと書いてあって、債務者としてゴールド・スミスさんの名前が書いてあるわけだね。

 : ゴールド・スミスというのは個人の名前ではなく、金細工商人一般をさす職業名

だよ。

シア出版

6. 債務者の名前と債務額が書いてあればおカネになる



：粘土板に書いたのは、債務者の名前と債務額だから、この二つが書いてあればおカネとして使えるわけだ。



：振出人（債務者）と金額しか書いていない約束手形と考えればいいんじゃない。



：その約束手形には名あて人や満期日も書いていないということだね。そういう約束手形はまさにおカネ！



：これまでの探究でおカネというのは、物々交換の不便さを解消するモノではなく、債務を記録したデータということになる。



：常識からあまりにもかけ離れていて、すぐには信じられない。



：次はさっき話題になった普通預金など銀行預金というおカネの債務者は誰かを探究してみよう。



：銀行預金は、デジタルデータだから債務者を見つけるのはなかなか難しいと思うよ。



：もっと難しい問題がある。1万円札や千円札などの紙幣の債務者は誰かということ。



：千円札なら今持っているよ。



：千円札に名前なんて書いてない。誰が債務者なんだ・・・？

【参考文献】

アダム・スミス (2020) 『国富論 (上) (下)』

講談社

デビッド・グレーバー (2016) 『負債論—貨幣と

暴力の5000年』以文社

フェリックス・マーティン (2014) 『21世紀の貨幣論』東洋経済新報社

古川 顕 (2020) 『貨幣論の革新者たち』ナカニ